

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第2回高松市地域部活動検討委員会
開 催 日 時	令和5年2月20日（月）10時00分～11時45分
開 催 場 所	高松市役所 11階 114会議室
議 題	(1) 国が推進する部活動改革の動向について (2) 令和4年度地域運動部活動推進事業について (3) 令和5年度の本市の取組について (4) 今後のスケジュールについて
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	野崎委員、溝渕委員、市原委員、大谷委員、谷委員、植松委員、大西委員、河野委員、西山委員
傍 聴 者	0人（定員5人）
担 当 課 及 び 連 絡 先	保健体育課 087-839-2657

会議の経過及び結果

委員長から会議公開の確認の後、以下の議題について協議した。

(1) 国が推進する部活動改革の動向について

事務局から説明（資料No. 1～No. 6）

(1) についての質問

（委員長）

改革の集中期間が、改革推進期間という形で改まったということ。また、地域移行に関しては、いくつかのパターンが示されるとともに、地域の人材を交えた活動指導員等、少し幅のある形になっているというようなお話であったように思います。

質問等がなければ次の議題に進めさせていただきたい。

(2) 令和4年度地域運動部活動推進事業について

事務局から説明（資料No. 7～No. 17）

(2) についての質問

（委員長）

資料No. 10では牟礼中で8回、庵治中で2回、市内の他の中学校での練習試合が2回、資料No. 11では両校とも専門の指導者がおられるということになっている。今回は合同部活動ということで活動したが、土日の練習以外は別々の学校で練習していたのですか。

（事務局）

基本的にはそうです。しかしモデル事業を実施する以前の総合体育大会時には、平日に合同練習を行った際の移動にタクシーを使用したと聞いています。モデル事業の検証期間に同様のことがあったとは聞いていません。

(委員)

生徒や保護者に感想は聞いていないのですか。

(事務局)

アンケートのようなことはしていませんが、活動場所に行って話を聞きました。その中で、「活動できることはうれしい。」という意見があり、人数が揃って活動することができたことは、生徒の活動が保障できたのではないかと考えています。

保護者による輸送に関しては、指導者に聞いたところ、庵治中学校の生徒が移動することがほとんどであったが、人数が3人ということもあり、保護者間で話し合っただけで送迎していただいたと聞いています。

(委員)

資料 No. 16 の必要経費について、これまでは学校部活動として大会に参加していたと思いますが、その大会参加費や移動費用、登録費用、会場使用料などはどこから出ているのですか。

(事務局)

大会には中体連主催と協会主催があります。全てを把握しているわけではありませんが、中体連主催の総合体育大会、新人体育大会、駅伝競走大会については、公共交通機関を利用した場合に市から輸送補助をしています。協会主催の大会の参加費については、学校によっては回数を制限して補助をしている学校もあります。

(委員)

統一して学校が負担しているのは、総合体育大会や新人体育大会などでかかる経費の一部と考えてかまわないですか。それ以外は学校間で統一されたものはないということですか。

(事務局)

そう聞いております。

(委員)

今の話については、地域移行された場合は、市の輸送補助が使えないケースも考えられるため、今後の検証が必要になってくるのではないのでしょうか。

(委員長)

現時点では、合同部活動ということで、学校が教育活動の一環としての部活動という位置付けの中で行われているので、例えば体育館や学校の施設を使うことは、教育活動の一環ということで全く問題なく行われていると思うが、地域クラブという形になると、学校施設の利用や他の施設に対して別に使用料等が必ず発生してくる問題かなと思います。

地域クラブとして自立していくのは、なかなか難しいところがあるのかなという思いがあります。

(委員)

しばらく平日は学校部活動、土日は地域移行になると思うが、一つ疑問に思うことは大会参加はどちらから出るのかなということです。今、議論されている費用のことも含めて整理されているものはありますか。

(委員)

先日、競技団体の会議が開催され出席しました。その会議で2ページの資料を配付されましたが、その中にも全国中学校体育大会（以下、全中大会）への参加等についての記載もありまし

た。主要な役員の方はこの内容について理解していると思いますが、それを今後学校やクラブに周知するのは大変だと思います。令和5年度の大会参加については競技ごとに進んでいると思います。個人スポーツについては、水泳等すでに行われている競技も多くあります。球技を含む団体活動に大きな課題が生じているのではないのでしょうか。それについて協議を進めていく必要がありますが、もう3月になるため、各競技団体では競技会場等来年度の計画を進めております。したがって学校等にも4月早々には周知しなければ、現場は混乱する可能性が大きいのではないのでしょうか。年度当初には団体登録や個人登録をしなければならぬ競技がありますが、これが円滑に行われなければ生徒に影響がおよぶことも考えられるため、そうならないようにしなければならぬと思います。

一方、クラブを創設しようとする方々にも方向性を示さないと、選ぶとする生徒や保護者が混乱する状況になるのではないのでしょうか。現状で全てを満たす内容を探すのは難しいのではないのでしょうか。実際に活動しながら問題点を修正していくようなやり方をしていってはどうでしょうか。

(委員長)

今の話は、資料No.14の大会参加についてであります。日本中学校体育連盟（以下、日本中体連）の動向に関わるものではないかと思われま。現在、日本中体連では全中大会への参加についていろいろと検討していることは承知していますが、今後、地域移行が進むと球技などでは試合数の変更や会場予約など気が遠くなるような開催準備が必要になってくるのではないのでしょうか。今回の検証事業でいえば、これまで、中体連の大会への参加については、人数が単独チームで出場できない等の規定がありましたが、それが若干緩和され、牟礼中学校と庵治中学校の合同部活動が来年度の新入生の人数に関わらず総合体育大会まで継続できるようになったことは、大きな変更ではないかと思えます。

(委員)

今後、種目によっては、中学校の部活動として今回のような合同チームで行うケースが多くなっていくのではないかと思われま。一方、地域クラブが設立されれば、地域クラブは独自に活動していくと思われま。また、競技によっては大会参加について中体連からの条件があり、例えば、中体連に団体登録する時に、「ガイドラインを守っていなければ大会への参加を認めない。」というものがあります。クラブについては、平日はほとんど練習せず、週末だけ練習しているチームがほとんどですが、ガイドラインでは土日の活動時間等に制限が設けられており、平日も練習できる学校部活動と差が出るのではないのでしょうか。クラブ化されるチームがたくさん出てくるとは思いますが、クラブと中学校の部活動は切り離し、学校部活動の延長線上の地域移行を検討していけばいいのではないかと思えます。

(委員長)

今後は、中学校で生徒が一年間活動する内容を、学校の指導者が地域の指導者に伝えていくなど、学校と地域の連携が必要になってくると思われま。これはかなり時間がかかるのではないのでしょうか。先程の委員の発言は、「学校教育活動の一環で行われてきた「学校部活動」の地

域移行を中心に据えて検証していけばいいのではないか」ということであつたと思います。

(3) 令和5年度の本市の取組について

事務局から説明（資料 No. 18～No. 21）

(3) についての質問

(委員)

指導者不足という説明がありました。どこの学校のどの種目でどれくらいの人数が不足しているかという情報をいただければ、スポーツ少年団等の指導者にも声をかけて協力していきたいと思つています。

(委員)

総合型地域スポーツクラブは、現在高松市内に12団体で、連絡協議会に入っているのは5団体です。現状では広く協力するのは難しいとは思つていますが、少しでも協力していこうという話はしていますので、今後も情報交換をさせていただきながら進めていきたいです。

(委員)

保護者の中で問題となっているのは、「どうなっていくのかが分からないのが不安である。」ということと「子どもたちを主体に考えていただきたい。」ということです。

今の説明内容の中で、都市部であれば総合型地域スポーツクラブや民間事業者も多く、継続した取組が可能であると思つていますが、地方では難しいのではないかと思つています。今年度の牟礼中学校と庵治中学校の合同部活動の取組はとても良い取組だと感じました。しかし、部員数の多い部活動同士の合同は、大会出場の場合等でいろいろな問題も考えられるので検証が必要だと思つています。また、部活動指導員の方の育成を時間をかけて行い、困っている地域に派遣して活動を継続していくことが重要であると思つています。

(委員)

文化部の指導者の派遣について検討いただき感謝しています。文化部の中でも吹奏楽部はたくさんの楽器の指導があり、現在の音楽の教員も全員が吹奏楽の経験者ではなく、また、経験者も全ての楽器を経験していないため、できる限り多くの指導者を派遣いただけるような多様な制度設計をお願いしたいです。

(委員)

必要になる経費について行政の補助があるのか等、市としての長期的な方向性を示してほしいと思つています。

(委員)

先般開催された「総合教育会議」の報道発表がありましたが、「高松市地域部活動検討委員会」との位置付けを教えてください。

(事務局)

「総合教育会議」は様々な教育課題を市長と教育委員が話し合う場であり、今回は、これまで取り組んできた「部活動の地域移行」について情報共有したものです。基本的には、「高松市地域部活動検討委員会」においてこの問題の協議をしていくことを考えています。

(委員)

ほとんどの方がマスコミから情報を得ているのが現状ではないでしょうか。

(事務局)

「総合教育会議」でも情報が不足していることに対して指摘がありました。今後その点については検討して対処していきたいと考えています。

(委員)

今年度の事業については、各学校の教員が兼職・兼業申請を行って指導を行っています。次年度のモデル事業については、土日の活動に部活動指導員を入れての活動を考えていただきたいと思います。土日の活動に部活動指導員を入れることで、平日と土日で指導者が変わることによる生徒の意識や指導者間の連携等の検証ができるのではないのでしょうか。また、活動中のけが等に伴う指導者の責任などの制度についての検証も必要ではないのでしょうか。

(委員長)

部活動指導員は指導だけではなく、生徒の引率なども関わってきます。その役割を分担するような制度設計なども考えていく必要があるのではないのでしょうか。そうすれば、教員の働き方改革にも貢献できるのではないのでしょうか。しかし、中体連の大会運営等、教員が土日の部活動から完全に離れていくことがすぐにできることは難しいのではないかと感じています。

(委員)

部活動指導員を育成する制度を整備していくことが大切であると思います。また、部活動指導員が生徒への指導だけでなく、保護者対応を行うことも課題となってくるのではないかと思います。

(4) 今後のスケジュールについて

事務局から説明 (資料 No. 22)

(事務局)

貴重なご意見をいただきました、今後も「高松市地域部活動検討委員会」を開催し、子どもたちのための検討を行っていききたいと考えていますので、よろしくお願いします。

(閉会)